

地域・コミュニティ活動助成

チームメイクスポット

Team MAK-e Spot

和歌山県和歌山市

【活動のテーマ】

まちなかの古民家を活用した、子ども、学生、店主等の多世代交流の拠点づくり



活動エリア



団体設立の経緯

当団の前身は12年前に和歌山市が中心市街地活性化事業を活用して設立した、まちなか交流スペース『みんなの学校』で2019年3月に閉館した後、スタッフ一同で公益団体を立ち上げ、引き続き学生と協働でまちなかの活性化に取り組んでいます。

そのため、当団体は本町地区周辺の自治会・商店街・市民団体・行政等との間に既に信頼関係を構築しており、地域交流実践のノウハウを持っています。

しかし2019年以降和歌山市ではコミュニティ再生における助成金などの支援がなく、存続が危うい事態となっています。



【活動に至った経緯と背景】

私たちは180年の歴史を刻み、和歌山城を望む城下町、本町地区を中心に活動しています。近隣商店街はかつては繁栄していましたが、現在は空洞化と高齢化に悩むシャッター通り商店街と形容詞されています。

そこで以前の賑わいを取り戻そうと“モノをつくる、街をつくる、人を育てる”をテーマに『つくり場』という言葉からTeam MAK-e Spotと名付けました。

2017年、和歌山市は若者の活力により中心市街地に賑わいの創出を図ろうと『まちなか大学構想』を立ち上げ、2020年4月に2校、2021年4月にはさらに2校の大学が開学しました。

そこで12年間、大学と連携して活動をすすめてきた当団が大学と連携して、できることから始めよう！と、地域住民や商店街を巻き込みながら、子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄れる“居場所づくり”に取り組みはじめました。

【2021年9月までの活動内容と成果】

5月、教育学部を専攻する和歌山信愛大学江口ゼミの学生と一緒に自分たちに何ができるのか、模索するために和歌山市中央商街連合会の理事長をお招きしてワークショップを開催しました。城下の系譜を受け継ぎ、伝統と誇りを知ることは、郷土愛を育むことにつながると考えるからです。

この時間を通して、学生達からは、この地区の人たちの役に立ちたい！もっと町の人と交流を図りたい！など活発な意見が飛び出し、理事長からも、もっと人や企業、行政を巻き込みながら、まちづくりを進めていってもらいたいと激励をいただきました。



ゼミ生は市外、県外出身者も多い。この街の現状を知ることで課題を見つけ解決策を探る手段をディスカッションしました。

できることから始めよう

そうしている時、長雨続きにより空き家の雨漏りが増し腐食やカビの発生がすすみました。そこで、まずは壁塗りや屋根改修から取り組むことになりました。自分達でできることからコツコツと少しずつ…とみんなでセルフリノベーション活動は始まりました。

しかし、老朽化は思ったよりも激しく、屋根の改修工事はプロにお願いし、室内の清掃からはじめ、荷物の搬出、壁塗りや障子貼りを空き家オーナー、学生、当団が一緒になって取り組みました。

この作業はなかなか大変ではありましたが、しかしこれによって、三者（オーナー、学生、当団）の距離はグッと近くなったように思います。なんとかリノベーション作業もすすみ、子ども達を迎える準備ができましたので、夏の企画を進めていきました。



子ども達に少しでもお祭り気分を味わわせてあげたい ほんまち子ども食堂『七夕まつり』

4月、5月とコロナウィルスが猛威を奮い、関西でも大阪を中心に緊急事態宣言が発令されるなど緊張感のある日々が続きました。予定していた子供食堂も開催を断念。そこで、この波が治ったら子ども達に少しでも楽しい時間を過ごしてほしい！と『七夕まつり』を企画しました。6月に大阪の緊急事態宣言が解除されたことを機に無事開催することができました。



夏休み学習支援とまちなか文化&芸術ワークショップ

当団メンバーや学生達が講師となって開催した学習支援は大変好評でした。また先に紹介した和歌山市中央商店街連合会のご協力を得て店主達が講師となって開催した茶道(冷茶)体験等の体験型ワークショップは普段、子供食堂に関心のない方々がたくさん参加してくれた事で活動を広くPR できました。



【今後の活動予定】

空き家の改修工事をすすめ、誰もが気軽に立ち寄れる“縁側カフェ”の実現を目指します。